

保通信

水保まちづくり・広報部 平成19年 6月 1日発行

たる

農業者 学校 消防団 PTA 地域内交流型 水土里 地域住民 ネット JA 自治会

「対策のねらい」

般

参

加者

に

よる

植

樹

風

景

くかう

しい通

- ① 農地や農業行用水などの資源は、農産物の生産だけでなく、琵琶湖を はじめ豊かな農村の環境をつくり上げる。
- ② これらの資源を琵琶湖にも配慮しながらきちんと管理し、その上で豊か な生態系や心和む田園景観を育みます。
- 子供たちから高齢者までみんなが生き生きと暮らす農村の実現を目指 し、県民の共有の財産とします。

し一何にん新た形こやい仕がこま暮 く人分汗なしめ成の農手組、れですこ おひにをでくのと為村農み農まみみの 願とも流水組新い、の家で家でんん事 いり新そ保織しっ生保にはが農なな業 申が規うのもいた産全各守減家がでは し少事で村出仕農基を種っりをい豊 上し業はづ来組業盤、のて、主きか私 げづであくまみ・の今農い農体いなた まつもりりしを農維後業く業とき農ち す協あまにた、村持ど施こ者しと村の 。力りせ参が地の保の策とのた暮環住 し不ん加、域持全よがが高集す境む て安かし今ごつ、う集難齢落農を農 。、まと多県に中し化な村守村 私でに面土ししくがどのりの た水つ的・ててな進の実つ環 しう ち保くな自いいっん共現く境 の町り機然くくてで同をりを ふ内上能環かこいい活目上農 保思 るにげを境がとまる動指げ業 町い さある維の課かす現でし 作ま とる必持保題ら。在守て子だ づ組要・全と、さ、ら取供け く織が発、な資らこれりたで にが りをあ揮良っ源にれて組ちな 協水 、生りさ好ての 、まきみかく 力保 村かませない維今でままら づしすて景ま持後としす高そ 程民 く、。い観す保、同た。齢こ りみくの。全担じ 宜の

◦新平 我た成 がな十 水対九 保策年 町と度 もしか そてら のっ農 対農地 策地• に・水 取水• り・環 組環境 み境の を保良 ス全好 タ向な 一上保 ト対全 し策と ま∟ そ しがの た施質 ◦行の さ向 れ上 まを し図

她 水 環 境を守り 育

出 ഗ





す資がおき



みみの里全景

保

業

委

員

さ水国境本の加嘉民さ れ保道汚の抑さ田のる て町4染植止れ知森四 はの7の樹力セ事の月 いす 7 改がとレ・-かぐ号善行しモ山つ十 がそよにわて二田で一 でばり期れ多│市あ日 しと綺待、数が長る、 ょ言麗さーの行を「旧 ううにれ本参わは出野 かこ整て一加れじ会洲 ◦と備い本者まめい川 もさまのにしたの河 あれす成よたくゾ川 ◎長り◎さⅠ敷 りた 散自 を十又んンに 歩然 願種 丶のㄴ び う類地関がわ な公 ど園 と三球係完こ 共千温者成地 にで に三暖がし球 利我 用が 環百化参、市

おも施利。源皆客まご。労通造ツのの水 でじ販キ方施保 のて売」が設町 所新、の、はの

す就を製ク者ち

ま会業品や用た

願し設用 と様様し縁 し方とたが いれで者 いまあ、 てのしのあ も地てでつ 得たト製職聴皆 たせる職 しん為員 活域と、て 保なリ造員覚様 か福言地こ まが、共 障就ミ販ととは す、思多 さ祉う域の 、労ン売共そじ あ先グ、にのめ 。末うく れにこの地 るをへ喫日他ま ん貢と皆守 永ほが い見犬茶中のし くど地 こ献で様山 おに域 とではと市 はつの店、障て をきなは水 生け美経バ害こ 付は外 合協在 願るく今保 活た容営」をん つ何施後町 訓りつ、ム併に い力住 のが者 てら設喫に 練施な小クせち を設ど物 | 持は 程でで おかそ茶施 よき日 行内の縫へつ。 りのの店設 ろな中 ま社も等が い社作製ン利私

会のので

び わ こみみの 里 開 所

所 長 板 垣 幸







まちづくり推進会議 研修報告(南小松イチゴ園)

産業部会

水保町のまちづくり推進の一環として地域にあった特産物(減反施策)や活動を模索する為に、県の 情報を入手しながら外部でまちおこし事業推進の活発また効果が出ている団体を視察した。

25年前に圃場整備の検討があり、集団転作の中で水稲のみ耕作していた地域でその地に合った何 か変わった作物ができないかと意見交換をしていた時に「イチゴ栽培はどうか?」との意見が出て実施 検討に入った。(集団転作はローテーションで実施していく為、同じ場所で栽培不可であるイチゴ栽培が 適している・果樹園経験者がいたこと・近江舞子浜の近くにあり四季を通じて観光客が訪れる・近所に 大手企業の保養所があり販路が確保できるetc)

現在22名の女性メンバーで60アールを耕作、最高時は100アール。この地区は毎年2・3月に台風並み の強風が吹きハウス栽培ができない。その為露地栽培で年間通じての収入がない。イチゴの収穫は2 5日間で害虫・鳥害および気候変動にて左右される。耕作オペレーターや地元賛同者の確保に苦心し ておられる。イチゴのあとはピーナッツ・サツマイモを栽培。京滋の保育園・幼稚園の体験学習としても 活用されている。

産業部会の課題として ①自治会・まちづくり推進会議・農業組合・ライスメイトと連絡を取り合い活動 していきたい。 ②JAおうみ富士直売所にむけて地元のメリット模索と働きかけ(水保町の直売コーナ-確保) ③水保町内保全管理田を利用した特産品の栽培検討。

最後に水保町を取り巻く情勢が刻一刻と変化している昨今、より豊かな水保町を築いていく為に高齢 者及び若者の力を無視することはできません。関係各位の協力により、水保町自治会会員が一丸と なって推進していきましょう。









めだかクラブ料理教室

ギョウザ500個

3月17日、水保集落センターにてめだかクラブ・小学校PTA・子ど も会・健康推進委員・生涯学習部会・健康福祉部会の各種団体こど も26名・大人11名がギョウザとおにぎりつくりを一緒に体験しまし

各自、色とりどりのバンダナを頭にかぶりエプロンを着け健康推進 委員さんの指導の下で腕を振るいました。まず野菜の下ごしらえ (ハクサイ・ニラ・ニンニク・ショウガなどをみじん切り)。次にお肉(豚 ミンチ)を野菜と一緒によく混ぜギョウザの皮を用意し、作った具を 丁寧に真剣なまなざしで子供たちは具を包み込んだ。4つのホット プレートで各班の子供たちが焼き上げ、皿にとり用意したおにぎりと -緒に全員で美味しくいただいた。

めだかクラブの活動も一年間を通じて料理・工作・ゲーム・自然体 験をし、また異世代交流ができ町内の活性に花を添えてくれてい る。最後にめだかクラブの活動に当たりたくさんの方々にご協力い ただきありがとうございます。今後も当クラブがますます盛んになる ようご支援ご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。



名前 下村 真璃ちゃん 2.16生まれ ご両親 コメント

下村哲矢・初美ご夫妻 兄妹仲良く元気に 育ってね!

お

誕生

お

め

でと

いまなぜウォーキング?

それは…歩くとこんないいことがいっぱいあるからです!

まずやってみよう 1日1万歩

- ① 肥満解消・体脂肪を燃やしメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)対策にも
- 中性脂肪をとり肝機能低下ストップ
- ③ 血液中の善玉コレステロールが増加
- ④ 心臓機能・肺機能をパワーアップ
- 骨の老化を防ぐ
- 新陳代謝を促進し、素肌も綺麗に
- 生体リズムを整え、寝つき目覚めもGood
- ⑧ 心晴れ晴れ、ストレス解消

厚生労働省の「健康日本21」によると健康維持に最適な運動消費カロリーは1週間で2000Kcalで - 日あたり約300Kcalと言われています。体重60kgの人が時速4kmのペースで10分歩くときの 消費エネルギーが30Kcalになり、1日で1万歩あるけば約300Kcalを消費し、他の運動をしなくても 十分体脂肪を燃やすことになります。

めだかクラブ

学校週5日制の導入後、新たに休みになった土曜日の子供 の受け皿として国によって発足された「遊友クラブ」のひとつとし て発足された「めだかクラブ」も、水保の皆様のご協力によって 活動を支えられ、約5年になります。その間に水保のこどもの 生活も変わってきました。スポーツ少年団の活動日の変化、塾 通いの普及等々。

しかし、かつてのように大きい子と小さい子も学年を超えた集 団で屋外で遊ぶという目標は保ち続けております。昨年は老人 サロンとの合同行事で、お年寄りとの交流を始めました。今年 は農地振興の事業と連携し川遊び(水保の小川に住む動植物 の観察)や、今年開設された「びわこみみの里」との交流から障 害を持って生きている人への認識を深められる活動も計画した いと思っております。

PTAの方だけでなく、色々な方々の飛び入り参加は大歓迎で す。子供の活動に一層のご協力をお願いします。

斉藤 恵





水保町からは8人が速野小学校に新入学されました

(上町)北村 亮介(りょうすけ)・今井 亜門(あもん)・今井辰紀(たつのり)・今井 和(なごみ) (中町)下村 竜輝(たつき)・小島 颯(はやて)

(西町)今井 愛友(あゆ)・金岡麻梨亜(まりあ)

(敬称略)